

知事記者会見の概要

日 時：令和8年4月1日(水) 11:30～11:56

場 所：502会議室

出席記者：7名、テレビカメラ4台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 令和8年度当初にあたって

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

< 幹事社：読売・日経・YTS >

☆発表事項

知事

県民の皆様、おはようございます。

厳しい冬の寒さが和らぎ、春の花々がいっせいに咲き始めました。北国に暮らす私たちにとって、待ちに待った希望の春であります。

いよいよ今日から、令和 8 年度がスタートいたしました。

今年は、本県の県域が現在の形に確定してから、150 周年に当たっております。いわば、山形県の 150 歳の誕生日ということでもあります。本当、節目の年だなと思っております。

AI によりますと、1876 年、明治 9 年 8 月 21 日に、庄内地方と村山、最上、置賜地方が合併して現在の山形県が確定したということでもあります。当時の人口は約 60～70 万人と推測されるとありました。

ちなみに、1920 年、大正 9 年に第 1 回国勢調査が行われ、そのときの本県の人口は約 96 万人でありました。

ここで、昨年の秋に米国の有力メディア、ナショナル・ジオグラフィックが、本県の記念すべき 150 周年の年にあたる年の 2026 年に行くべき世界の旅行先 25 選として、日本から唯一、山形県を選出したということがありました。これはなんという奇遇だろうかというふうに思っています。

誠に光栄に思いますとともに、世界から評価いただいた喜びを、県民の皆様と共有し、今後の活力の糧にしていきたいと考えております。

私は、世界から、「山形県よ、これからもがんばれ！」とエールをいただいたような気がしております。

この 150 年、幾多の困難に立ち向かい、山形県の礎や歴史を築いてきてくださった先人たちの功績に思いを馳せつつ、今後の 200 周年、300 周年という将来に向けて、たゆまない挑戦を続けていかなければならないとの思いを強くしているところであります。

常に変化を恐れず、新たな技術や価値観、外部の活力をも取り入れ、県民の皆様や市町村と一緒に、誇りと気概を持って新しい時代を切り開いてまいります。

さて、本県を取り巻く情勢をみますと、国際情勢の不安定化による社会経済環境への影響もみられる中で、少子高齢化を伴う人口減少の加速や、あらゆる分野での人手不足、物価高騰の長期化など、課題が山積しているところであります。

一方、そういった状況にありましても、本県の経済指標は決して縮小しておらず、伸びております。

実質及び名目の県内総生産額は、この 10 年増加傾向にありまして、名目県内総生産額は全国の平均を上回って伸びております。

また、直近のデータで、1 人当たり県民所得は東北 1 位となりました。

令和 6 年の農業産出額は 30 年ぶりに 3,000 億円を超えましたし、令和 5 年の工業製品出荷額は 3 兆 3,500 億円を超え、過去最高額となり、中でも半導体関連産業の出荷額は全国 4

位、その付加価値額は全国1位となりました。

さらには、昨年国土交通省から公表された居住人口に対する関係人口数は本県が全国1位でありました。

加えて、都道府県単位でのふるさと納税額は、4年連続本県が1位となっております。

これらは、ひとえに、県民の皆様や事業者の皆様、市町村など関係各位の積極的な活動とご尽力の賜物と感謝申し上げる次第でございます。

人口減少下にありましても、決して悲観することなく、前向きに挑戦を続けることが大事です。県民の皆様お一人おひとりが幸せで満ち足りた生活を送れること、県内経済がしっかりと回っていくことが重要であると考えております。

こうした中、未来につながる持続可能な県づくりにあたりましては、「令和8年の県政運営の基本的考え方」でお示したとおり、1. 県民のウェルビーイング向上、2. 県内経済の持続的成長、3. 安全安心な地域づくり、これら3つの重点化すべき方向性に基づき、地域に賑わいを創出し、魅力を高めることで、若者や女性はじめ多様な人材を惹きつける、持続可能な山形県を目指していきたいと考えております。

令和8年度の当初予算は、以上の3つの重点化すべき方向性を基に、「生活経済対策・新生やまがた未来予算」として編成したところでありまして、25年ぶりに7,000億円を超えました。

その主要な施策について申し上げますと、1つ目の方向性である「県民のウェルビーイング向上」では、結婚支援のパッケージ展開や、子育てに係る経済的負担の軽減、東北公益文化大学の公立化に伴う機能強化、屋内スケート施設や博物館の整備、モンテディオ山形の新スタジアム建設支援など、次代を担う子ども・若者の教育の充実や、賑わいがある多くの方が県内で暮らしたいと思えるようなまちづくりなどに取り組んでまいります。

さらに、国内外との交流や安全・安心を支える広域交通ネットワークの整備を図るため、山形新幹線米沢トンネル（仮称）の早期実現に向けた取り組みや、山形・庄内両空港の滑走路延長を含めた機能強化、米坂線の復旧や市町村におけるバス路線の維持・改善に取り組んでまいります。

2つ目の方向性である「県内経済の持続的な成長」では、年間売り上げ100億円以上の企業を現在の2倍以上に増やしていくため、関係機関が連携して企業の成長戦略策定や設備投資を支援するほか、クリエイティブ産業の創出・拡大に向けた施策を展開いたします。

また、企業における外国人材の確保に向けた取り組みを強化するとともに、若者・子育て世帯を中心とした移住・定住の促進や県内回帰など、社会減対策により一層力を入れて取り組んでまいります。

本県の居住人口あたりの関係人口数が全国1位になったことを好機と捉え、市町村や各界と連携しながら、本県の応援団ともいえるべき県外の人々とのつながりを拡大・強化し、本県の活力の維持・向上につなげていきたいと考えております。

農業では、衛星データを活用した農地利用の効率化や、農工連携によるさくらんぼに特

化したスマート農業機器の開発推進など、農業DXによる生産性の高い農業経営の実現を図ってまいります。

次に、3つ目の方向性である「安全・安心な地域づくり」では、持続可能な医療提供体制の構築に向けて、西村山地域の新病院整備を推進するほか、医療従事者の確保・定着や訪問介護サービス提供体制の確保に向けた支援を行います。

クマ被害対策としましては、昨年11月に取りまとめた「山形県版クマ被害対策パッケージ」に基づき、市町村や猟友会などと連携し、「知る」、「守る」、「捕る」、「体制」の総合的な対策を実施し、県民の皆様の生命と安全・安心を守るための取り組みを推進してまいります。

また、災害対応力の更なる強化を図るため、「やまがた安心ポータルサイトやまもり」の本格運用など防災DXを推進するとともに、令和6年大雨災害からの復旧・復興を着実に進め、災害に強い県土づくりを進めてまいります。

さらに、蔵王の樹氷復活プロジェクトに引き続き力を入れるとともに、松くい虫被害が深刻になっている庄内海岸林について、行政や研究・専門機関、地域団体、住民などが一体となって、将来にわたり持続可能な再生と保全に向けた取り組みを推進してまいります。

ただいま申し上げた施策について、新たな体制のもと全力で取り組み、「人と自然がいきいきと調和し、真の豊かさと幸せを実感できる山形県」を実現してまいります。

ここで、今年度の本県における大きな動きやトピックに触れたいと思います。

まずは、冒頭に述べました、山形県成立150周年であります。この歴史の意義と重みを、県民の皆様、市町村と改めて認識しながら、共に感謝し、共に祝い、今後に向けて更に挑戦を続けていきたいと考えております。

折しも、ナショナル・ジオグラフィックから「2026年に行くべき世界の旅行先25選」に、日本で唯一山形県が選ばれたことを県民の皆様と共有し、郷土愛の醸成につなげるとともに、本県の強みである精神文化や温泉、雪、山、食といった観光資源を積極的に活用しながら、将来にわたって世界的な観光地として、国内外のさまざまな方々から訪れていただける付加価値の高い観光地づくりを推進してまいります。

先般、観光有識者懇話会から、本県の誇る精神文化である出羽三山について将来的な世界遺産登録を視野に入れた取り組みを検討するよう、答申がなされました。誠に時宜を得た提言であると受け止めているところであります。

また、高温耐性と収量性に優れた水稻新品種「ゆきまんてん」の令和9年デビューに向けて、消費者の印象に残る統一ロゴの作成やプレデビューイベントの開催など、「ゆきまんてん」を広く知っていただく取り組みを進めるとともに、今後の販売については実需者のニーズを幅広く把握しながら、戦略的に取り組んでまいります。

結びになりますが、令和8年度も、「県民視点」、「現場主義」、「対話重視」、この3つを大切にしながら、県民の皆様がここ山形県で暮らしてよかったと幸せを感じていただける山

形県づくりに全力で取り組んでまいりますので、今年度もよろしくお願いいたします。

☆フリー質問

記者

山形放送の伊藤翼です。よろしくお願いいたします。3点お尋ねしたいことがございます。

では、1点ずつお聞きします。まず、水稻新品種「ゆきまんてん」の統一ロゴとプレデビューイベントなどを行っていくということだったのですけれども、それぞれ具体的な内容で、今お話いただけることをお聞きしたいです。

知事

はい、これ以上の具体的なことというのは、統一ロゴはまだ作成しておりません。今年の方針ですので、これから取り組むということでもあります。

記者

プレデビューイベントはたとえばどんなものをイメージされていらっしゃるのか。

知事

そうですね、それについても担当部でしっかり検討しているというふうに思っておりますので、まだ私のところにきている情報というのはございません。

記者

では、もう1点。観光の面で、知事は年頭の挨拶の際に、もっとさまざまな国の言語を、英語ですかね、多言語化したいとお話されてらっしゃったと思うのですが、その後どのような方向性に定まってきたかというのをお聞きしてよろしいでしょうか。

知事

そうですね、多様な言語ということで、それはすでにもう外国の方がたくさん、今までいらっしゃっていなかったような欧米からのお客様がね、多く来ているというような情報を漏れ聞いているところでもありますけれども、そういう方々がいらしたときに、果たして山形県の観光地をですね、説明するものが多言語で紹介できているかというところはまだだと思っておりますので。おもてなしというのは、むしろそこをしっかりと構築していくことが大事かなと思っております。

ただここ1年だけですべてができるわけではありません。将来的にも世界中から来ていただけるようにということで、着々とですね、12月の補正予算からもう始めてはいるんですけれども、今年もそれに力を入れ、また、来年も再来年もしっかりとそこに力を入れてですね、観光地、あるいは飲食店とか、いろんなところに来ても不便を感じないというよ

うな、これがおもてなしだというふうに思っていますので、そういったことに力を入れて取り組んでいきたいと思っております。

記者

次で最後になります。

モンテディオ山形の新スタジアムの件について知事が触れられていらしたのでお聞きしたいんですけども、出資を予定していたスポンサーの1社が突如経営から離れて、そのあとにエスコンという別の不動産会社が新たに出資を表明をされたわけですけども、この一連の流れについて、今どのように知事は受け止めていらっしゃるか、改めてお聞きしてよろしいでしょうか。

知事

はい。モンテディオ山形の新スタジアム建設支援ということを今日も申し上げました。

本当にたくさんのお応援者がいらっしゃいますし、スポーツ観戦ということでですね、県民が楽しんでいると思います。県外からも来ておりますので、交流人口ということにもなっているかなと思いますし、大きな経済効果ということにもつながるようになってほしいなというふうに思っているところです。

そういったことで、天童市と山形県と協力し合っていますね、支援をしていくということでもありますけれども、そもそもスタジアムの敷地は所有地と言いますか、県有地でありまして、そこをお貸しするというような、駐車場もすべて県有地ということになっていますので、大変協力をしてきているというふうに思っていますけれども、今般、今、記者さんがおっしゃったようないろいろな経緯がありました。そのモンテディオフットボールパークの会社からですね、県に対して、どういうふうになってそういうふうになっていったかという詳細なことはお聞きをしておりませんので、エスコン社が関わってくださるというような結果だけをしっかりと受け止めておりますので、本当に大変期待の持てる企業さんが関わってくださったなという思いであります。

本当にいろいろあったけど、本当にがんばって探して、ご縁がある企業さんということだと思いますので、これからですね、しっかりと着実にスタジアム建設が進むようにというふうに願っているところです。

記者

先月19日に、本来であれば（モンテディオ山形とエスコン社の）共同会見が開かれる予定だったんですが、それが一旦延期になったわけですけども、それについてはどのように受け止めますか。

知事

19日という、議会が終わった次の日ですかね。やはりいろいろなことが生じて中止になったかと思いますが、いずれまた一緒にそういったことができるのかなと思いますので、大変楽しみにしております。

記者

河北新報の渡辺と申します。よろしくお願いいたします。

あいさつの冒頭で、県域150周年のところで、AIによる人口の推計とかそちらに言及されていたと思うのですが、AIを取り入れた理由でしたり、あと使い勝手のご所感というところをお伺いできればと思います。

知事

はい。私はそんなにデジタルが得意なほうではございませんが、お休みの間にですね、なんとかしなければということで、土日にパソコンに向かって原稿を作成したんですけれども、休み中ですから県の職員に「これを調べてくれ」などと言うのもなかなか気の毒だなという思いを持ちまして、やはりスマホで「150年前の山形県の人口」とかですね、そういうふうにパッと入れると「AIによるなんとか」ということで情報がすぐ出てきます。それで、ここはそういうことなのかなと、なんとなく前にも聞いていたような内容であったので、AIが出してくれた情報をですね、そのまま盛り込みました。確認はしていないという意味で使わせていただきました。

記者

さくらんぼテレビの柿崎です。よろしくお願いいたします。

ちょっと広い意味合いでの御質問になってしまうんですけれども、持続可能な山形を実現するに当たり、県民へ呼び掛けたいことや求めるものなどがございましたら教えていただけたらと思います。

知事

はい。持続可能ということを考えますと、大変広い意味になるかと思っています。

そうですね、やっぱり「山形」というと豊かな自然があって、その自然を持続可能な自然にしていかなきゃいけないと思っていまして、樹氷再生とか、あと海岸林の再生とかですね、そういったこともやはりひとつの持続可能な森・林を作っていくということになるかと思っています。

あと、人間が住んでいく、住み続けるためにはですね、さまざまな働く場所があったり、その基盤となる社会インフラでありましたり、あと医療インフラというのも非常に大事であります。そういった諸々のことを総合的に考えてね、持続可能なものにしていかな

きやいけないというふうに思っております。

記者

そういったさまざまなものを持続していく上で、県民の視点としてはどのような精神性
というか、心持ちでいるのがいいな、みたいなものはあるんですか。

知事

そうですね、今回のナショナル・ジオグラフィックから「世界の旅行先25選」の中に日
本から唯一山形県が選ばれたというようなことがありますけども、やはり山形県の良さとい
うことをもっともっと再認識していただきたいなというふうに思っています。「何もな
いところだ」とかですね、そういったマイナスの受け止めをしてしまうと、それが子ども
や孫、周りの若者にまで響いていったりするのはよろしくないと思いますので、むしろ足
りないところもあるけれども、でも良いところがたくさんある。だってこれだけ世界から
選ばれているのは、案外ないと私は思っています。

むしろですね、本当にいろんなものがある県だなと。山形県にいらっしゃった人は「食
べ物がおいしい」とまず最初におっしゃいますし、あと「温泉がいい」とかですね、本当
にいろんなことをおっしゃいます。プラスして精神文化というのはもっとも強みだなと私
は思っていますので、本当にその精神文化や食、美しい自然といったようなことを大切に
しながらですね、県民の皆さんとそれを共有しながら、やはり今後の山形県がますます住
みよい県になるようにしていきたいと思っていますので、県民の皆さんには本当に何回も
申し上げますけども、良いところをもうちょっとね、認識するというようなことを、ぜひ
ですね、今後力を入れていただければなというふうに思っています。